

記録

35ミリ

カラー／30分

英・仏・独・葡・伊・
西・日本語版

■企画

外務省

■監修・指導

横道萬里雄

スタッフ

■製作・脚本・演出

村山英治

■撮影

前田 実

木塚誠一

■照明

菱沼誉吉

■録音

岡崎三千雄

■編集

沼崎梅子

■解説

鈴木敏郎

(英語版)

■出演

藤戸：後藤得三

猩々：梅若六郎

高砂：宝生英雄

土蜘蛛：西川道雄

道成寺：観世静夫

松風：観世寿夫

〔能〕

文部省特選 第10回日本紹介映画コンクール金賞

600年の歴史を経て今なお生き続けている重厚なドラマ「能」は、日本が世界に誇りうる文化のひとつである。この映画は、今日上演されているものの中から代表的な演目を選び、その名場面をみせながら能の特質を語る。能への入門編となっている。



「藤戸」は、戦記物語として有名な『平家物語』に題材をとった能で、戦争の犠牲となって殺された名もない庶民の嘆きには、時代を超えた深い感動がある。作者は世阿弥といわれているが不詳。

「猩々」は非常に古い能で、祝言能とされている。祝いの酒を讃える能で、可憐な少年の姿をした妖精の舞いを通じて酔いを美しく表現している。能の動作は足の舞踊といわれ、ここでは、舞踊の足を駆使して見事である。「高砂」もポピュラーな祝言能で、婚礼によく謡われる。若い男の神が颯爽と登場し、テンポの速い舞いをまう。日本の祭りで見られる古い民俗芸能でも、神が呼び出され民に祝福を与える場面が見られる。

「土蜘蛛」も『平家物語』から取ったもので、頼光という武勇勝れた武士が怪物（大きな蜘蛛）を退治する。蜘蛛ははじめ僧に化けて武士の命を狙う。蜘蛛が糸を吐く様が、能の演出によって見事に表現されている。「道成寺」にも似たような能の演出があり、能では最大の道具である大きな鐘を使う。後段では鐘が釣り上げられ、主人公は蛇になって般若（鬼女）の面をつけ鱗模様の衣装を着て現れる。

「松風」は、王朝時代の『源氏物語』から取材して、若く美しい女性を主人公にしている。観阿弥が古い曲の「汐汲」を能に作り上げ、さらに世阿弥が改作したもので、世阿弥は能の表す純粋な美を花にたとえ、若い女性にその美を見た。